キラリ★話題の「ひと」

新里（にっさと） 陽平（ようへい）さん
（高萩町）

○プロフィール
ミュージシャン
会社員
ギター講師

音楽でつながる佐野に

音楽講師の母親をもち、小学生の時は佐野市主催のミュージカルに出演するなど、子どもの頃から音楽に親しんできた新里さん。

大学を卒業後、就職した会社の転勤でフィリピンのセブ島に赴任した時、現地のミュージシャンたちと意気投合し、バンド「Ｈｏｕｒｇｌａｓｓ」（アワーグラス）を結成。４人のメンバーと２年半の活動ののち、２０１９年帰国。バンド活動は続くはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、自分がフィリピンに行くことも、メンバーが来日することも難しくなってしまいました。

そこで２０２０年、これまでの制作曲を収録したアルバムＣＤをリリース。現在、新星堂イオンモール佐野新都市店やインターネットで販売されています。それがラジオ局に届き、新里さんはレディオベリー、ＮＡＣＫ５、ＣＲＴ栃木放送などに出演し、ラジオでバンド活動の紹介をしています。

リモートで仕事ができるようになったことで、２０２１年の結婚を機に、東京から佐野に生活の拠点を移しました。佐野に戻ってみて、改めて自身の佐野愛を感じているといいます。

「佐野は自然が多く人も温かい。自分を育ててくれた佐野に音楽で恩返しがしたい」と語る新里さんは、現在、市内保育園の保育士さんにギターを教えたり、音楽教室の発表会ではギター伴奏で参加しています。

「コロナで人とのコミュニケーションが希薄になりがちな日常に少しでも音楽が役に立てたらと思います」と、大人も子どももギターを通して集える場を作り音楽でつながる仲間が増えていくことを楽しみにしているといいます。

新里さんを中心に、新たに佐野のメンバーでバンドが結成される日も近いような予感がします。

（市民記者　永倉文子）

▲市内保育園のクリスマス会でギターを演奏する新里さん

市長からのメッセージ

現在、新型コロナウイルスのオミクロン株の猛威により、爆発的に感染者が拡大しておりますが、感染リスクを減らすには、やはり基本的な感染防止の徹底が一番重要となります。家庭内でのマスク着用もお願いしておりますが、引き続きのご協力をお願いいたします。

高齢者の方への３回目のワクチン接種ですが、一部日程の前倒しを行い、１月末から開始しております。３月からは高齢者だけでなく、64歳以下の方も、２回目接種から６カ月経過後に、３回目の接種を受けることができます。集団接種はモデルナ社製ワクチンが主となりますが、２回目までファイザー社製ワクチンを接種した方の交互接種も可能で、まだ予約に空きもありますので、接種券が届いた方から予約をしていただき、早期の接種をお願いします。

ちなみに私は３回目、モデルナを接種しました。

さて、先月号で佐野市が生産量県内１位の農作物についてお話しましたが、今月は少しその話を深掘りしたいと思います。イチジクについては県全体１・７ｈａのうち作付け面積１・３ｈａ（令和元年調査）で生産と約76％が佐野市産です。スカイベリーについては、県全体35・６ｈａのうち６・87ｈａで生産され、県生産の約２割が佐野市となります。また「スカイベリー栃木プレミアム」という非常に厳しい審査に合格したものだけが名乗れる幻のスカイベリーもあるようで、見かけたら１度は食べてみたいと思います。

今月は年度の締めくくりであり、卒業のシーズンです。学び舎や職場など、いろいろな卒業がありますが、卒業される皆さんの新たな門出をお祝いするとともに、更なるご活躍を期待しています。

金子　裕

今回の表紙　「雛人形展」令和４年２月２日撮影

葛生伝承館では、４月６日（水）まで雛人形展が開催されています。細部まで丁寧に作り込まれた雛人形は、見ているだけで心が華やぎます。

※市のフェイスブックでも、市内のイベントなどの様子をお知らせしています。ぜひ、ご覧ください！

気軽に立ち寄れるＴｅａ Ｒｏｏｍ

田沼高校跡地の佐野市国際クリケット場内には「Ｔｅａ Ｒｏｏｍ」があります。気になってはいたものの行ったことが無かったため、先日訪れてきました。入って良いのか不安になりながらも敷地内に足を踏み入れてみると、案内板と順路を示す看板がありました。店内にはソファーやテーブル席があり、日差しがさんさんと差し込み、明るく開放的でした。デッキにはテーブル席がありました。クリケット協会事務局長の宮地さんに話を伺うと「クリケットだけではなく、さまざまなイベントでクリケット場を使っていきたい。まずは地元の人に気軽に立ち寄ってもらいたい」と話してくれました。また、「運動公園や梅林公園のように気軽に遊びに行ける場所になってほしい。そして、ゆっくり休める場所としてＴｅａ Ｒｏｏｍを利用してほしい」とも話していました。自然に囲まれた落ち着いた環境で、自分好みの過ごし方ができる空間です。

（市民記者　尾島民江）

▲Ｔｅａ Ｒｏｏｍ外観

日本人初のプロクリケット選手が誕生しました

佐野市在住の宮地静香選手が、日本人で初めてクリケットのプロ契約を締結しました。宮地選手は、兵庫県出身で大学入学を機にクリケットを始め、２００６年には佐野市に移住。同年開催された東アジア太平洋大会において初めて女子日本代表としてデビューして以来、日本代表最多の７０試合以上に出場し、日本代表現役最年長プレーヤーとして活躍されています。左投げ左打ちのオールラウンダーで、日本代表の投打の中核としてチームを牽引してこられました。日本代表として国際大会で活躍する傍ら、ニュージーランドやオーストラリアなど海外でもプレー経験を重ね、日本クリケット協会の推薦のもと、昨年１２月７日にプロ契約を結びました。宮地選手は「念願のプロ契約が結べて嬉しい。私が活躍することで日本人選手への今後の道を作れれば」と意気込みを語ってくれました。

▲宮地静香選手

佐野弁 ばんざい

草木が成長して繁茂することをホキルという

春になると、地面のいたるところに雑草が芽を出します。また、道端や屋敷内の広い空き地などの、冬枯れの雑草を若葉の緑がおおうようになります。

新鮮な雑草が勢いよく成長し広がっていく様子を、共通語で〝はびこる〟といいます。はびこるとは、つる草などが地面を這うように広がることをいいます。これに相当する方言は見当たりませんが、雑草が長く伸びて繁茂している様子を表す方言に「ホキル」があります。

ホキルは主に農村地域の中高年者が使っていますが、だんだん少なくなっている傾向にあります。とはいっても、雑草の茂る農村地帯から、ホキルが消えるようなことはなく、これからも存在し続けることでしょう。ホキルは「穂が吹き出る」が変化したものといわれています。

「春のおとずれは、雑草にとってよっぽど待ち遠しかったンダンべねえ。雨が降るたんびに、あんなにホキルンだから。雑草にヨッチャー（よっては）ひと晩でだいぶ伸びるカンね」

雑草の伸び具合・繁茂する状態を方言でホキといいます。ホキは、ホキルの〝る〟が脱落して、名詞のはたらきをします。

「草バッコ（草の生えているところ）は、土目がエーンダンベ（良いのでしょう）ねえ。ホキがエーのをみると。ところで、こんなにホキテチャー（繁茂してると）、ザッポ（朝露などが多くあるさま）くって歩けネーよ」

（市民記者　森下喜一）